

「なにもなくて豊かな島 ～チャレンジ～」

「なにもなくて豊かな島」と聞いて、「どんな島だろう？」と誰もが首をかしげるだろう。私もその一人だった。“なにもなくて豊かな島” フィリピン・カオハガン島研修参加しようと思ったきっかけは、この印象に残るキャッチフレーズと、青い空、青い海はインパクトが、ただ素直に「ここに行ってみたい！」「青い海が見たい！」と思った子供のような好奇心からだった。だが、この島を知っていくにつれ、ただの観光リゾート地ではないことが分かった。例えば一部だが、水は大切に扱われていること、電気があまり使えないこと、島の人たちは自然に近い暮らしをしていることが分かった。そこから私は学校ボランティアや一日ホームステイで、お互いの国の習慣や文化を理解しつつ、教育環境、衛生面を目にしたい、と目標を立てた。



まず、学校ボランティアでは事前準備を何度も重ねたが、中々内容について話し合うことに苦戦したが、日にちが近づくにつれ、内容も固まり、芸術学科の先生からのアイデア・アドバイスを参考に透明のビニールシートにクレヨンで夢・宝物を子供たちに書いてもらう活動にすることになった。最初は、子供たちがどのくらい英語を知っているのかも分からなかったのが不安もあったが、私たちメンバーの自己紹介では繰り返し名前を口にしてくれ、子供たちはみんな笑顔でこちらまで笑顔になれた。子供たちはよくアイスクリームの絵を描いており、みんなアイスクリームが大好きなことや、恥ずかしがり屋な子が多く、顔を隠す動作が多くみられた。終わった後には、充実した学校ボランティア活動にすることができた。



次に一日ホームステイだが、行われる前日では、ビサヤ語がわからないことや、一人一家庭であることがとても不安な気持ちでいっぱいだった。ホームステイの当日の朝はホームステイ家族の発表があり、さらなる期待と不安を胸に、ホームステイの家庭に向かった。私のホームステイの家族は父、母、姉、弟の4人家族の家庭でまず、ヤドカリを割ってヤドカリの中身をバケツに入れ、小型の船で釣りをさせていただいたり、船で島を一周したり、昼食の準備、片付けを手伝ったり、現地の島の人たちや、ホームステイ



の家族と過ごした。その際に、なにもわからない私にみんながずっと笑顔で接してくれ、本当に充実した1日にすることができた。この夜にパーティーでは朝とさつされた豚の丸焼きが出た。とさつの際には抱っこされている小さい子供から、老人まで立ち会っており、小さいころから子供たちは「食料」の大切さがわかっている理由が分かった。この一日ホームステイでは、カオハガンの人たちの生活習慣や文化、衛生面を目にすることができ、充実した一日にすることができた。



この研修でカオハガン島に行って、身を持って体験することによって、「なにもなくて豊かな島」という意味が分かるだろう。食べたことなくともチャレンジ！虫が苦手でもチャレンジ！言葉が通じなくても、とにかくチャレンジ！！この研修で、ここに書ききれないほどのたくさんのものを吸収できたと思う。このことをたくさんの人に伝えて、身を持って目で見て、感じてみないとわからないことを他の人たちにも体験してほしい。カオハガンの島の人々の笑顔と、どこまでも青い海と、空いっぱいに広がる星空は一生忘れません。貴重な機会を体験させていただき本当に感謝しております。ありがとうございました！サラマッ！

